

ほめられて伸びるか、叱られて伸びるかに関する一考察

石橋 知裕 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中藪 伸二

キーワード：ほめる、叱る、指導

1. 緒言

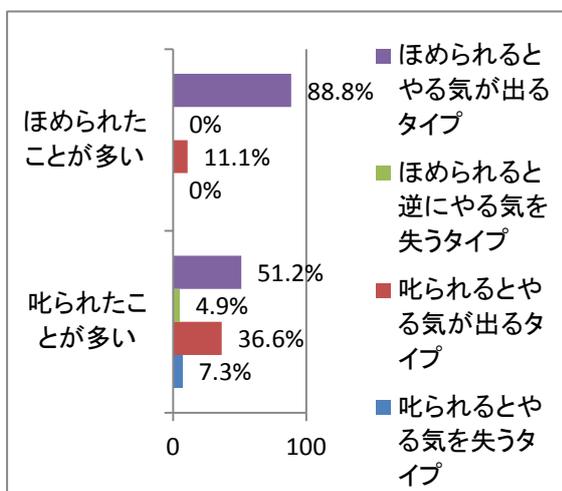
部活動でのスポーツ場面において、指導者は「ほめる」ことを通じて、選手、生徒に意欲を与え、やる気、モチベーションを高めさせるのである。また、「しかる」ことを通じて、選手、生徒の負の行動を正し、欠点、盲点を指摘し、反省させるのである。

そこで、本研究では、上記のことが学校教育の一環である部活動におけるスポーツ場面ではどのようになっているかを検討したい。スポーツ場面においては、「しかる」ことを重視しているのだろうか？実際の部活動における指導者の指導の実態を明らかにし、また、その経験を通して、現在、「ほめる」「しかる」それぞれについて、どのような指導観の影響が学生の意識の中に形成されているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

Aスポーツ系大学（以下A大学）のバスケットボール部員 50 人を対象として、2014 年 12 月上旬に無記名の自記式による質問用紙調査を実施した。質問紙の内容は、部活動での指導者から「ほめられたこと」、「しかられたこと」を大学生がどのように受け止めているかなどに関するものである。

3. 結果及び考察



アンケート項目「ほめられたこと」と「しかられたこと」どちらが多かったですか？の質問とあなたは「ほめられるとやる気が出るタイプ」、「ほめられると逆にやる気を失うタイプ」、「しかられるとやる気が出るタイプ」、「しかられると逆にやる気を失うタイプ」のうちどのタイプですか？の4択の質問の回答とのクロス集計を行なった。その結果、スポーツ場面で「ほめられたこと」が多い人も、「しかられたこと」が多い人も「ほめられるとやる気が出るタイプ」と回答した人が多く、「ほめられたこと」が多いと回答した人の88.8%を占めた。

しかし、「しかられたこと」が多いと回答した人も「ほめられるとやる気が出るタイプ」と回答している人が約5割を占め、ほめられたいのにほめられていないことが分かる。また、「しかられたこと」が多い人が「しかられるとやる気が出るタイプ」と回答した数は、「ほめられたこと」が多い人が「しかられるとやる気が出るタイプ」と回答している人よりも約3倍も多い結果となった。

4. 結論

A大学生を対象とした調査のすべての結果から、部活動でのスポーツ場面では叱ることに偏った指導をするのではなく、ほめる指導を中心とする必要性が考えられた。選手の心理状況や、今までの指導環境をしっかりと理解し、タイミング良く、選手に対して励ます声掛けの大切さが示唆された。

引用・参考文献

- 赤坂真二(2013) ほめる叱る 教師の考え方と技術 何のために・何を見て・どのように。ほんの森出版。
- 小林なつき(2010) 部活動における指導者の評価の言動に関する一考察―「ほめる」「しかる」の実態と指導のあり方について―。茨城大学卒業論文。
- 尾木直樹(2014) 尾木ママの子どもを伸ばす言葉 ダメにする言葉。成美文庫。